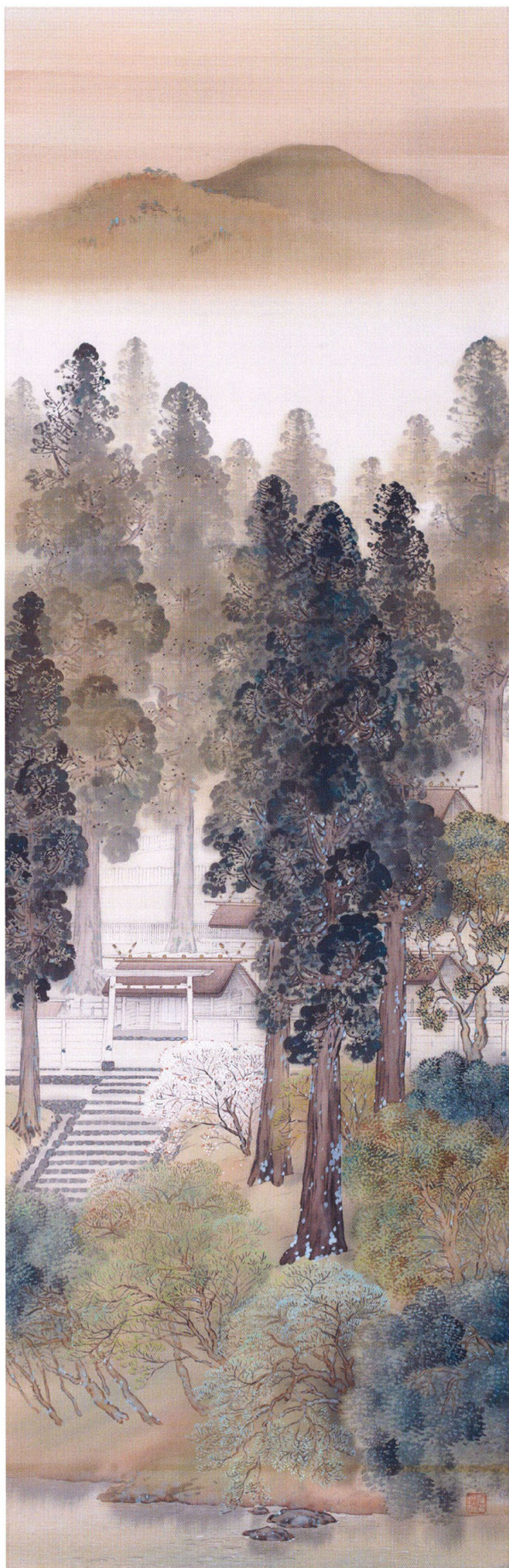


8 天壤無窮(内宮・外宮・二見浦旭日図) 中村左洲

三幅対

大正十四年(一九二五)  
絹本着色  
本紙各二二八・三×四一・八

旭日に照らされた二見ヶ浦の夫婦岩を中心に、右幅に桜咲く春の伊勢神宮内宮(皇大神宮)、左幅に紅葉の中の外宮(豊受大神宮)を描いた三幅対。大正十四年(一九二五)の大正天皇の御結婚二十五年に際して神宮奉斎会より献上された。画題の「天壤無窮」とは、天地とともに皇室が永遠に続くことを言祝ぐ言葉である。作者の中村左洲(一八七三〜一九五三)は、度会郡二見町(現在の三重県伊勢市二見町)の漁師の家に生まれ、幼少より絵を好み、十二歳で父を亡くしてからは、漁業で家計を支えながらも絵を描き続け、十代後半に伊勢神宮の神官であった四糸派の画家磯部百鱗のもとに弟子入りした。明治二十八年(一八九五)の第四回内国勸業博覧会に出品した《製塩図》が、同会に行啓された昭憲皇太后の目にとまり、同一の絵を献納するよう恩命を拝したこともある。その後も様々な展覧会で出品を重ね、宮内省や東宮職に作品が買い上げられた。大正六年の第十一回文展で《群がれる鯛》が入選をはたしたのを契機に、魚の名手として名が広まるが、生涯にわたって伊勢を離れることなく神宮を題材とした絵を描き続けた。









- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出典を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

## 寿ぎの品々を読み解く

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 75

編集 宮内庁三の丸尚蔵館  
制作 株式会社 東京美術  
翻訳 黒川廣子  
発行 宮内庁  
平成二十九年一月七日発行

© 2017, The Museum of the Imperial Collections, Sanmonnan Shozokan